

令和4年度 大阪大学工学部新入生保護者説明会

工学部新入生の保護者を対象にした、令和4年度「新入生保護者説明会」を、4月2日（土）にオンラインにて開催しました。

説明会の動画をYouTubeにアップロードしましたので、改めてご視聴いただくことも可能です。また、説明会当日に時間的制約から頂いたご質問に回答できなかったものを、下記に回答します。

ユーチューブ URL : https://youtu.be/qThz1aAfd_Y

※「YouTube 動画」については令和4年4月2日に撮影したものです。

○質問一覧

- 【Q1】通学定期を購入すべきかどうかで悩んでいます。今年度は対面授業、オンデマンド、オンライン授業になるとのことですが、その中で対面授業の頻度がどの程度になるのでしょうか。ご回答をお願い致します。
- 【Q2】1・2年生で単位数はどれくらい取得するべきですか？
- 【Q3】研究室所属になると研究で遅くなるため下宿する学生が多いとのことですが、下宿しないとイケない状況になるのでしょうか？
- 【Q4】実際どのような授業や科目があるのか、毎日どのくらいの授業数なのか、二年目以降どのように変わって、実際どれくらい忙しくなるのでしょうか？
- 【Q5】概略でもいいので、学科ごとの教育内容、専攻、研究室の振り分け方法（学科ごとで違うなら重複する範囲で）教えてください。
- 【Q6】子供が海外留学に興味を示しています。半年または1年間留学をした場合、必修科目等の修得の理由で留年がさけられないのでしょうか？また、大学院進学までを視野にした場合、工学部の学生として、どのタイミングで留学することをお勧めしますか？
- 【Q7】研究留学は一般公募により、誰でも行けるのですか？それとも特定の研究室で関連プロジェクトがあり、かつ推薦を得られた場合などに限定されますか？
- 【Q8】パソコンで製図をすることはありますか？その場合、外付けモニターは大きい方がいいのでしょうか？
- 【Q9】吹田キャンパスの見学に行かせていただいたのですが、利用したトイレの便器の中が全て茶色く汚れていました。（全体的にトイレが汚い状態）コロナ禍ということもありますので衛生上よろしくないと思われまます。今後、掃除を徹底していただきたいと思ひます。宜しくお願ひいたします。

【Q10】 博士課程進学の最近の動向について教えてください。

【Q11】 就職活動の実情について教えてください。

【Q12】 どういった研究が企業と連携しているのでしょうか？

○ご質問と回答：

【Q1】 通学定期を購入すべきかどうかで悩んでいます。今年度は対面授業、オンデマンド、オンライン授業になるとのことですが、その中で対面授業の頻度がどの程度になるのでしょうか。

【A1】 大阪大学工学部の専門教育科目の授業は原則として対面授業で実施することを基本としています。ただ、学部1年生の全学共通教育科目の授業については、感染症予防が難しい発声を必要とする語学などがあり、また大阪大学で感染症蔓延防止のため設けている講義室定員2/3以下という基準のため、大人数で行う場合が多い学部1年生の授業は収容できる講義室が少ないなどの問題もあります。お子様が履修する科目にもよりますが、昨年度実績では1年次の履修科目はオンライン授業が1/3、オンライン授業と対面授業のハイブリッド授業が2/3程度となっています。（今後の感染症の状況により変更されることがあります）

しかし、大学は授業を受講するだけでなく、教員をはじめ、友人等との人間関係の構築等を学ぶ貴重な機会であり、キャンパスでないと学べないことが多くあると考えています。感染症対策を講じた上でできるだけキャンパスで様々な体験をしてもらえるように取り組みを行っていますので、是非積極的にキャンパスでの学びにご参加ください。

【Q2】 1・2年生で単位数はどれくらい修得すべきですか？

【A2】 各学科、コースによって単位数は異なりますが、1年次終了時で40単位程度、2年次終了時で70～80単位程度が目安となります。また、2年生秋・冬学期からの授業は、全て吹田キャンパスで開講します。全学共通教育科目はほとんどが豊中キャンパスで開講するため、2年生春・夏学期までに全学共通教育科目の必要単位を修得してください。修得単位数が各学科、コースで定められた単位数に満たない場合は、各担当教員から修学指導を行っています。

【Q3】研究室所属になると研究で遅くなるため下宿する学生が多いとのことですが、下宿しないといけない状況になるのでしょうか？

【A3】3年生になると実験や実習の授業が増え、4年生で研究室へ配属されると研究活動が活発となるため、自宅外に部屋を借りて通学する学生も増えます。しかし、所属する学科、研究室により実情が異なり、自宅から通学する学生もたくさんいます。

工学部 3・4年生のうちおよそ6割がキャンパス近辺（箕面市、豊中市、吹田市、池田市、茨木市）に居住しており、残りの4割程度はキャンパス近辺以外から通学しています。

【Q4】実際どのような授業や科目があるのか、毎日どのくらいの授業数なのか、二年目以降どのように変わって、実際どれくらい忙しくなるのでしょうか？

【A4】実際に開講される授業については、全学共通教育科目は、「全学共通教育科目履修の手引き」、各学科向けに開講されている工学部専門科目は、「工学部履修案内」を参照ください。またウェブサイトでシラバスを公開しています。

シラバスURL：https://www.eng.osaka-u.ac.jp/ja/student/ug_curriculum/

(ページ下部 ●工学部履修案内(令和4年度入学者用)内)

また、毎日3～4科目の授業を履修することになります。授業実施時間は、1限の開始が8:50、4限の終了が16:40です。1年次は豊中キャンパスでの全学共通教育科目がほとんどですが、2年生以降は、吹田キャンパスでの工学部の専門科目が増えます。

学生がどのような生活を送っているかについてはホームページ「めっちゃ阪大工学部」に掲載している「在学生・卒業生インタビュー」も参考にしてください。

インタビューURL：<https://www.eng.osaka-u.ac.jp/prospective/family/>

【Q5】概略でもいいので、学科ごとの教育内容、専攻、研究室の振り分け方法(学科ごとに違うなら重複する範囲で) 教えてください。

【A5】学科により違いがあり、コース分け、研究室の振り分けについては定員を設けており、希望により振り分けを行った後、定員を超過した場合は成績により配属を決定している学科や、学生間の協議により決定している学科もあります。詳細については、所属するクラス担任お問い合わせください。

【Q6】子供が海外留学に興味を示しています。半年または1年間留学をした場合、必修科目等の修得の理由で留年がさけられないのでしょうか？また、大学院進学までを視野にした場合、工学部の学生として、どのタイミングで留学することをお勧めしますか？

【A6】留学先の大学で修得した単位を単位互換により大阪大学の卒業要件に算入するという制度もありますが、全ての単位を参入できるわけではありません。また、特定の学年での必修科目が履修できなくなることから、4年間で卒業することは難しいかもしれません。クラス担任または指導教員と事前によく相談し、しっかりと履修計画を立てていただくことが必要です。

留学の時期についても、それぞれのコースによりカリキュラムが異なりますので、クラス担任または指導教員とよく相談をして決定をしてください。

【Q7】研究留学は一般公募により、誰でも行けるのですか？それとも特定の研究室で関連プロジェクトがあり、かつ推薦を得られた場合などに限定されますか？

【A7】海外の協定校との交換留学は、海外の大学と大阪大学との大学間交流協定に基づく「大学間交換留学」と、海外の大学の特定部局と工学研究科・工学部との部局間交流協定に基づく「部局間交換留学」があります。「大学間交換留学」については原則年に1回募集があり、学内選考の後、派遣大学が決定します。「部局間交換留学」については、年に1度の募集・選考に基づく派遣と、特定の研究室からの推薦に基づく派遣があります。

工学部には、国際交流推進センターを設置し留学を目指す学生を支援していますので、お気軽にご相談ください。

【Q8】パソコンで製図をすることはありますか？その場合、外付けモニターは大きい方がいいのでしょうか？

【A8】学科によりパソコンで製図することはあります。学科により状況は大きく異なりますが、CAD等を利用する学科においてもノートパソコンを利用しており、モニターの大きさよりパソコンのスペックが重要です。また、大きなモニターの方が便利ではありますが、無理に大きなモニターを購入頂く必要はありません。詳細についてはクラス担任に問い合わせください。

【Q9】吹田キャンパスの見学に行かせていただいたのですが、利用したトイレの便器の中が全て茶色く汚れていました。(全体的にトイレが汚い状態) コロナ禍ということもありますので衛生上よろしくないと思われます。今後、掃除を徹底していただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

【A9】便器の排水に井戸水を使用しているトイレをご覧になったものと思います。清掃は毎日行っており衛生的に配慮していますが、井戸水に鉄分が多く含まれるため、あのような見た目になっています。同じトイレでも洗面台は一般的な上水を使用していますので、ボウルに便器のような汚れはついていません。今回のご指摘も踏まえ、対応を検討します。

【Q10】博士課程進学の見近の動向について教えてください。

【A10】大阪大学工学研究科は高度の専門知識を持つ創造的研究者と先進的技術者の育成を目指しています。日本では他の先進国に比べて人口 100 万人あたりの博士号取得者数が少ない状況です。そのため大阪大学工学研究科では博士課程修了者を送り出し、社会からの要望にも答える必要があると考えています。これを支援するために博士後期課程進学者をサポートする制度を数多く用意していますので奨学金等についても積極的にご利用ください。

また、博士後期課程修了者には大阪大学での研究者としての道もひらかれています。

<日本学術振興会：特別研究員 DC に採用された場合>

特別研究員 DC1：研究奨励金 月額 200,000 円

特別研究員 DC2：研究奨励金 月額 200,000 円

※ 令和 5 年度に採用された場合の支給予定額

<大阪大学：博士後期課程学生に対するサポート>

- ・博士課程教育リーディングプログラム：奨学金月額 6~7 万円支給、授業料免除
- ・理工情報系オナー大学院プログラム：(理工情報系大学院のみ) 奨学金月額 6 万円支給
- ・大阪大学フェロシップ創設事業：研究専念支援金月額 15~17.5 万円、
研究費年額 50~70 万円 支給
- ・次世代挑戦的研究者育成プロジェクト (全学で 1 学年につき 100 名程度)：
研究奨励費 (生活費相当) 月額 15 万円
研究費年額 60 万円 支給

<工学研究科>

- ・工学研究科博士後期課程学生対象給付奨学金：奨学金月額 44,650 円 (授業料相当額) 支給

【Q11】就職活動の実情について教えてください。

【A11】就職状況については工学部ホームページに掲載しておりますので、そちらをご確認ください。就職については毎年2000社に達する企業からの求人があります。工学部の学生は、社会から高い評価を受けて良好な状況を維持しており、全国の企業、官公庁などに就職しています。実情は学科ごとに異なりますので詳しくはクラス担任にお問い合わせください。

進路・就職情報URL：<https://www.eng.osaka-u.ac.jp/ja/course/course/>

【Q12】どういった研究が企業と連携しているのでしょうか。

【A12】ほぼすべての各研究分野において企業と連携しており「めっちゃ阪大工学部」のウェブサイトで研究内容を紹介しています。

研究紹介URL：

<https://www.eng.osaka-u.ac.jp/prospective/introduction-research/>

また、工学部のキャンパスに企業が研究所等を設置し、連携して研究を行っており「めっちゃ阪大工学部」のウェブサイトで紹介しています。

企業連携紹介URL：<https://www.eng.osaka-u.ac.jp/prospective/company/>